

「下顎枝矢状分割術後の下顎頭形態の解析」

に対するご協力のお願い

研究責任者 宮下 英高
実務責任者 眞田 聰
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 歯科・口腔外科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 1998 年 3 月 31 日より西暦 2025 年 8 月 31 日までの間に慶應義塾大学病院 歯科・口腔外科を受診し、顎変形症に対する下顎枝矢状分割術を受けた患者さん。

2 研究課題名

承認番号 20251170

研究課題名 下顎枝矢状分割術後の下顎頭形態の解析

3 研究組織

研究機関 研究責任者

慶應義塾大学医学部 歯科・口腔 (職位) 専任講師 (氏名) 宮下 英高

外科学教室

4 本研究の目的、方法

顎変形症は、骨格異常に起因する咬合不全や審美的不均衡を特徴とする疾患であり、外科的矯正手術は、顎変形症の治療において主要な役割を果たしています。しかしながら、手術後の後戻りにより再手術が必要になるケースもあり、外科的矯正手術における解決すべき大きな課題となっています。後戻りの原因にはいくつか考えられますが、主要な原因の一つに下顎頭吸収が挙げられます。これらは、特発性下顎頭吸収 (Idiopathic condylar resorption, ICR) とも呼ばれ、下顎枝矢状分割

術後に下顎頭の容積が進行性に減少し、下顎枝の垂直高の低下や下顎の後方回転を招くことで、手術により構築された咬合関係の悪化をきたすものです。このように、ICR は外科的矯正手術の予後不良因子として知られていますが、未だその原因是不明でありその病態解明が必要とされています。よって、本研究では、外科的矯正手術を受けた患者さんの術後の下顎頭形態変化に影響を与える因子を調査し、それらが外科的矯正手術に与える影響を検証します。

5 協力をお願いする内容

患者さん本人の診療録の閲覧と画像データの利用

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2028 年 8 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当なし

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

慶應義塾大学病院 齢科・口腔外科学教室

研究責任者：宮下 英高

実務責任者：臼田 聰

連絡先

慶應義塾大学医学部 齢科・口腔外科学教室

〒160-8582

東京都新宿区信濃町 35

電話番号 :03-3357-1593

以上